



今月新しく入りました。

●一般の本

洛中洛外画狂伝 狩野永徳 (作=谷津矢車)
たぶんねこ (作=畠中 恵)
工場 (作=小山田浩子)
わたしをみつめて (作=中脇初枝)
鳥はぼくらと (作=辻村深月)
ライオンの棲む街 (作=東川篤哉)

●子どもの本

おばけのナンダッケ (作=巢山ひろみ)
マールとおばあちゃん (作=モルティエヌ)
へんしんレストラン (作=あきやま ただし)
いちごさんがね… (作=とよた かずひこ)
1001のどうぶつをさがせ! (作=ブロックルハースト)
ぱんつくったよ。(作=平田昌広)

中でもこの本が **オススメ** です。

家族写真

作=荻原 浩



娘の結婚、加齢に肥満、マイホーム購入、父親の脳梗塞…。家族を訪れる悲喜こもごもは、ささやかだけど大事件。ときに痛快に、ときに切なく描き、笑ったあとにじんわり心に沁みてくる。勝手にわがまま、見栄っ張り、失礼なことを平気で言っ、うっとうしいけどいらないと困る、愛すべき家族の物語。

うみのどうぶつとしょかんせん

作=菊池 俊



どうぶつ村のどうぶつたちは、としょかんの絵本が大好き。だけど、としょかんは島のまん中にあるので、はまべに住むどうぶつたちは、なかなかとしょかんに行けません。こまったトラ村長さんは、サルさんにそうだんしました。「わしにまかせなさい。」ギーコギーコ、すつとんぱん！そうして出来あがったのが…、わあー、ふねのとしょかんだ！

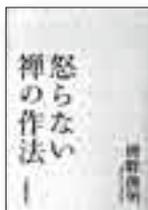


にひきのかえる

作=新美南吉

みどりのかえる
ときいろのか
えるは、何時
もけんかばかりして
いました。けんかの途中
で冬が来ました。冬眠
前に、春が来たらけん
かの決着をつけようと
約束をして眠りにつき
ました。冬眠が終わり
きれいな体で相手を見
ると、お互いのすばら
しさが分かり仲直り

してなかくよくなりまし
た。良く寝てゆつくり
休むと心も体もリフ
レッシュしておだやか
になります。争い(=愛
悲しみ)が和解(=愛
)に変わっていくことの
大切さを語りかけた
童話絵本です。



怒らない禅の作法

作=枡野俊明

日常生活を顧み
るに、この世
のものには全
てお互いの関わりあいで
成り立っている。怒り
に囚われず良い因縁を
結んでいく方がどれほ
ど大事なことが。お寺
の山門は俗世と聖域の
境界だ。ならば下車
駅の改札口を山門とみ
なし、そこを過ぎたら
俗(仕事)モードから

聖(リラックス)モ
ードに切り替えたらど
うか。ストレスの多い
現代社会を生きている者
にとつて、苦しみの源
となつて執着心を
捨て去ること。感謝
の気持ちを忘れないこ
と。禅の言葉を引用し
てこと細かに説かれて
いて、なるほどと思
うことばかりです。



春の桜、夏の海、秋の紅葉、冬の雪…。
美しい四季が体感できるのは日本人の特権。
そんな私たちがだからこそ、
読みたくなる「旬の本」があります。
シリーズ「旬の本だな」。
11月は「リフレッシュ」をテーマに
2冊の本をご紹介します。
紹介者は山内博子さん(鞍手町文庫連絡会)です。

Dr. 筒井の

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番



夫が脳梗塞で入院し、「半身麻痺と高次脳機能障害があります」と説明されました。「高次脳機能障害」とはどのような意味でしょうか？（63歳女性）

高次脳機能障害とは

人の大脳皮質は、大変複雑に機能し、人の行動や精神活動を制御しています。ひとりで言うところの複雑な大脳の機能が障害された状態で、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害や、頭部外傷などによる脳の損傷により起こり、損傷の部位により、さまざまな症状が出現します。

症状の種類

【失語症】

優位大脳半球（右利きの人は左脳）の言語担当部位の損傷で起こります。話す、聞く（理解する）、読む、書くという言語の4つの側面に何らかの障害が出ます。

【失認症】

対象の存在を知覚できるが、ある特定の感覚に関してはその対象がなにかを認識できない状態をいいます。半側視空間失認は傷害された脳の反対側の空間を認知しにくくなる状態です。この症状があると、認知しにくい方向にいる人や壁にぶつかったり、半側のみ食事を残したりします。ほかにも身体失認や病態失認などがあります。

【失行症】

麻痺などの運動障害が無いのに、目的とする行動が取れない状態です。普段の動作がぎこちなくなったり、はしやはさみ、ハブラシなどいつもの道具が上手く使えなくなったりします。

【注意障害】

周囲からの刺激に対して注

意・集中を維持できず気が散る、多くの刺激の中から必要なものを選べず、大事ではない刺激にとらわれてしまう、あるいは注意をうまく配分できず二つのことを同時に出来ない、など、注意障害といっても多様なタイプがあります。

とが思い出せない障害があります。

リハビリへの影響は

高次脳機能障害は、注目しにくい気付かれにくい障害です。しかしリハビリテーションを進める上で厄介な障害になることが多く、リハビリが思うように進まない場合などには存在が疑われます。

対処方法は

専門の作業療法士や言語聴覚士が詳しく検査して、高次脳機能障害の有無やタイプをまず評価します。障害を踏まえ、障害に応じたリハビリをすることで、その影響を小さくしたり、リハビリの効果を上げることが出来ます。



【アドバイザー】

高次脳機能障害とは大脳皮質の複雑な機能が障害されることを言い、注目しにくい気付かれにくい障害です。リハビリを進める上で阻害因子となることが多く、適切に評価し対応することが大切です。

筒井由香・つついゆか・昭和62年宮崎医科大学（現宮崎大学）卒。宮崎医科大学病院、産業医科大学病院、九州労災病院、筑豊労災病院などを経て、平成15年度より毎週木金曜日にくらで病院リハビリテーション科に勤務。日本リハビリテーション医学会専門医。